



ASAHI

INTECC

Your dreams. Woven together.

2010年6月期 第2四半期 決算説明

2010年2月17日

(証券コード:7747 東証二部、名証二部、ジャスダック)



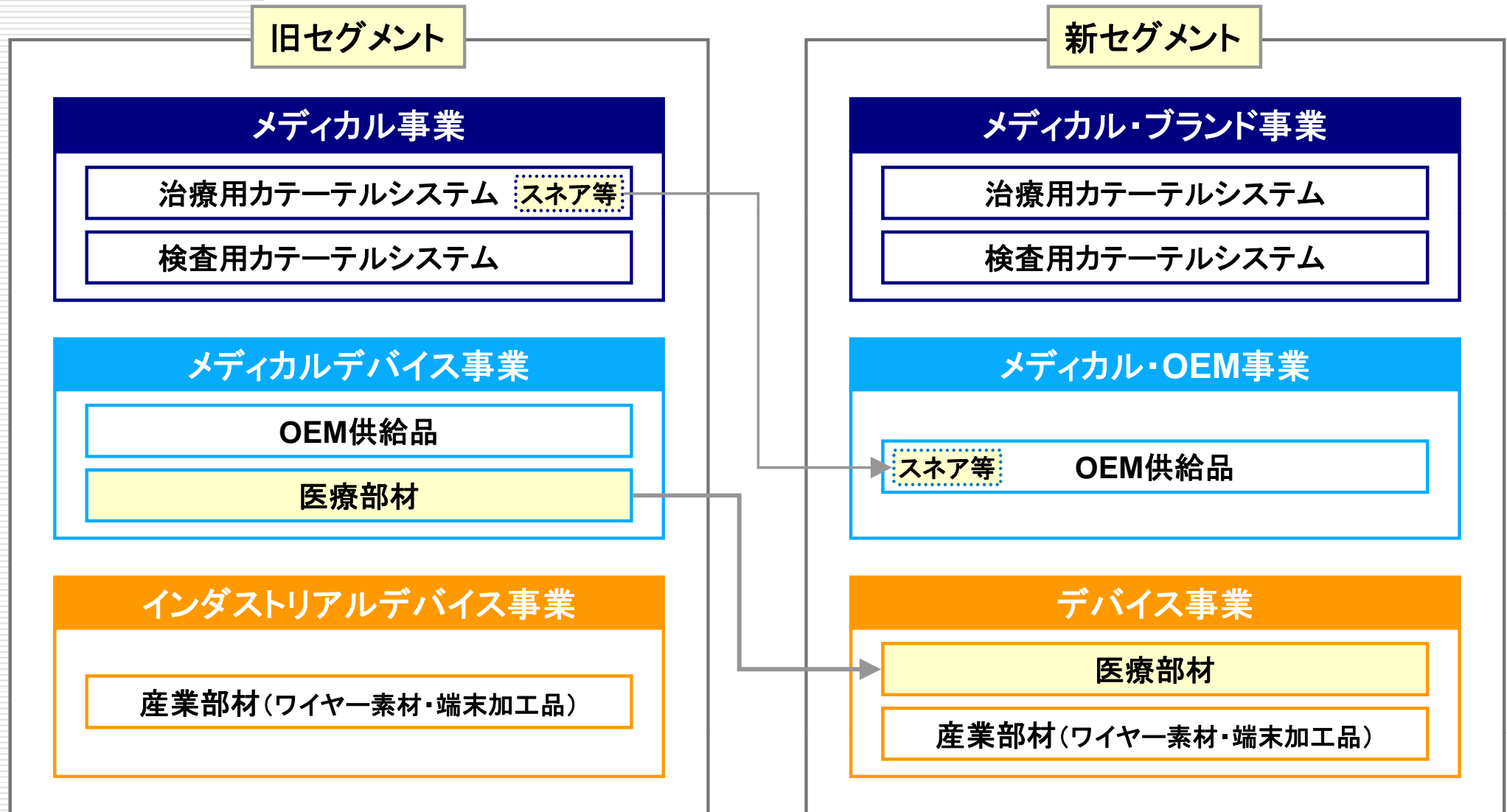
1 . 2010年6月期(上期)決算の概要

2 . 2010年6月期(通期)業績見通し



前提：事業セグメントの変更について-1

- 2010年6月期より下記のセグメント区分の変更を行っております。



※スネア：高周波ポリープ切除用内視鏡処置具



前提：事業セグメントの変更について-2

■変更の理由

- 従来より、インダストリアルデバイス事業は、産業機器分野のみならず医療機器分野に使用される「部材」に関する開発・製造を行っております。
- 現在メディカルデバイス事業に区分計上されている「医療部材」については、このインダストリアルデバイス事業において製造のほぼ全てを行い、それをメディカルデバイス事業に社内売上する方法としておりました。
- 今後も医療部材においては、売上増加する傾向にあり、よってインダストリアルデバイス事業においては、産業機器分野の部材に比べ、医療機器分野の部材を開発・製造する割合が更に大きくなることが予測されます。
- これら実態を考慮し、また部材に対する収益を明確に区分把握する観点から、セグメント区分の変更を行ったものであります。

■以下の資料上における留意事項

- 以下資料でのセグメント別の前年同期比較にあたっては、前期連結会計期間分を変更後の区分に組み替えて行っております。



2010年6月期(上期)決算のポイント(連結)

- 売上高は7,409百万円(前年同期比21.2%増)と堅調に推移
 - 増収分野: 医療機器分野 減収分野: 産業機器分野
 - ▶ 景気悪化の影響により産業機器分野は不調であったものの、医療機器分野は主に自社ブランド製品が国内・海外共に大幅増収となるなど好調に推移

 - 主に医療機器分野の原価低減・生産性向上により、営業利益は大幅に増加
 - 営業利益は1,647百万円(前年同期比 103.0%増)
 - (営業利益率は前年同期比8.9ポイント上昇)
- プラス要因
- ▶ タイバーツ安など為替動向の変化に伴う製造経費の減少
 - ▶ 主要原材料であるステンレスやプラチナなどの価格下落に伴う原材料費の減少
 - ▶ アボット社からの協議合意後のPTCA-GWの大量受注に対して主力生産拠点を中心に順調な生産稼働
 - ▶ 固定費及び販管費のコストダウン努力
- マイナス要因
- ▶ ASAHI INTECC HANOI CO.,LTDの立上げに伴う諸経費の増加
 - ▶ たな卸資産の再評価による在庫圧縮
- 経常利益は1,561百万円(前年同期比300.5%増)
 - ▶ 営業外費用に円高の影響による為替差損85百万円を計上(前年同期は同458百万円計上)
 - 四半期純利益は1,006百万円(前年同期は純損失286百万円計上)
 - ▶ 特別損失に投資有価証券評価損44百万円を計上(前年同期は同458百万円計上)
 - ▶ 特別損失に前期損益修正損失76百万円を計上



上期決算ハイライト(連結)

	2009年6月期 上期実績		2010年6月期 上期実績						
	金額 (百万円)	構成比 (%)	期初計画 2009/8/11	修正計画 2010/2/3	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比		期初計画比
							増減額 (百万円)	増減率 (%)	増減率 (%)
売上高	6,111	100.0	7,215	7,408	7,409	100.0	+1,297	+21.2	+2.7
売上総利益	3,269	53.5	3,928	-	4,178	56.4	+909	+27.8	+6.4
営業利益	811	13.3	1,054	1,646	1,647	22.2	+835	+103.0	+56.2
経常利益	389	6.4	1,016	1,567	1,561	21.1	+1,171	+300.5	+53.6
四半期 純利益	△286	-	626	1,013	1,006	13.6	+1,292	-	+60.7
EPS	△18.05円	-	39.50円	63.95円	63.48円	-	-	-	-



セグメント別売上高

	2009年6月期 上期実績		2010年6月期 上期実績			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
メディカル・ブランド事業	3,603	59.0	5,123	69.1	+1,519	+42.2
メディカル・OEM事業	882	14.4	899	12.1	+16	+1.9
デバイス事業	1,625	26.6	1,386	18.7	△238	△14.7
合計	6,111	100.0	7,409	100.0	+1,297	+21.2

(参考)

医療機器分野	4,958	81.1	6,458	87.2	+1,499	+30.2
産業機器分野	1,153	18.9	950	12.8	△202	△17.6



セグメント別営業利益

	2009年6月期 上期実績		2010年6月期 上期実績			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
メディカル・ブランド事業	971	65.7	1,828	78.9	+857	+88.2
メディカル・OEM事業	174	11.8	208	9.0	+33	+19.4
デバイス事業	332	22.5	279	12.0	△53	△16.0
計	1,478	100.0	2,316	100.0	+838	+56.7
消去・全社	△667	-	△669	-	-	-
合計	811	-	1,647	-	+835	+103.0



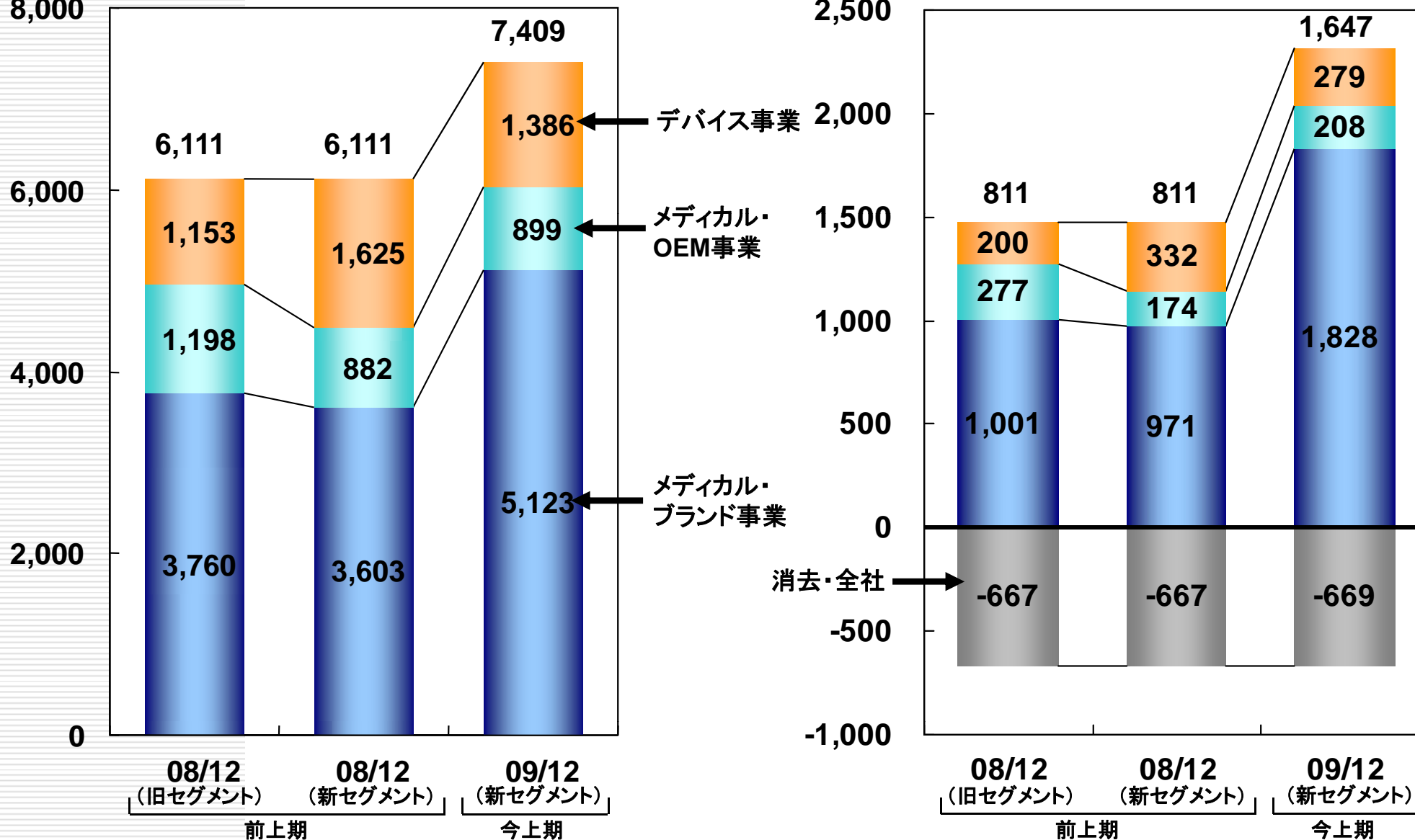
セグメント別の収益状況

(百万円)
8,000

【売上高】

(百万円)
2,500

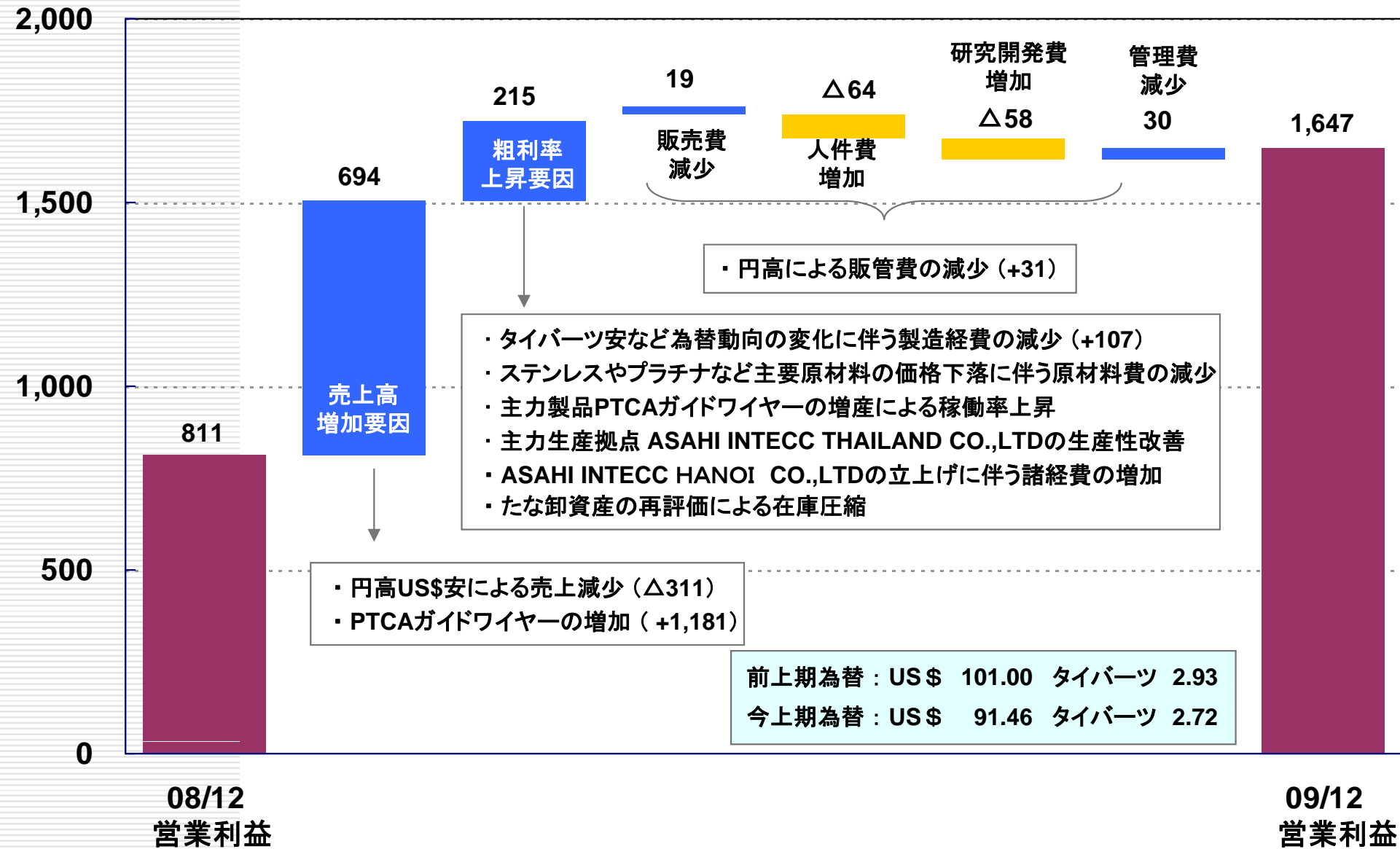
【営業利益】





営業利益増減要因分析-1 (為替の影響を含む)

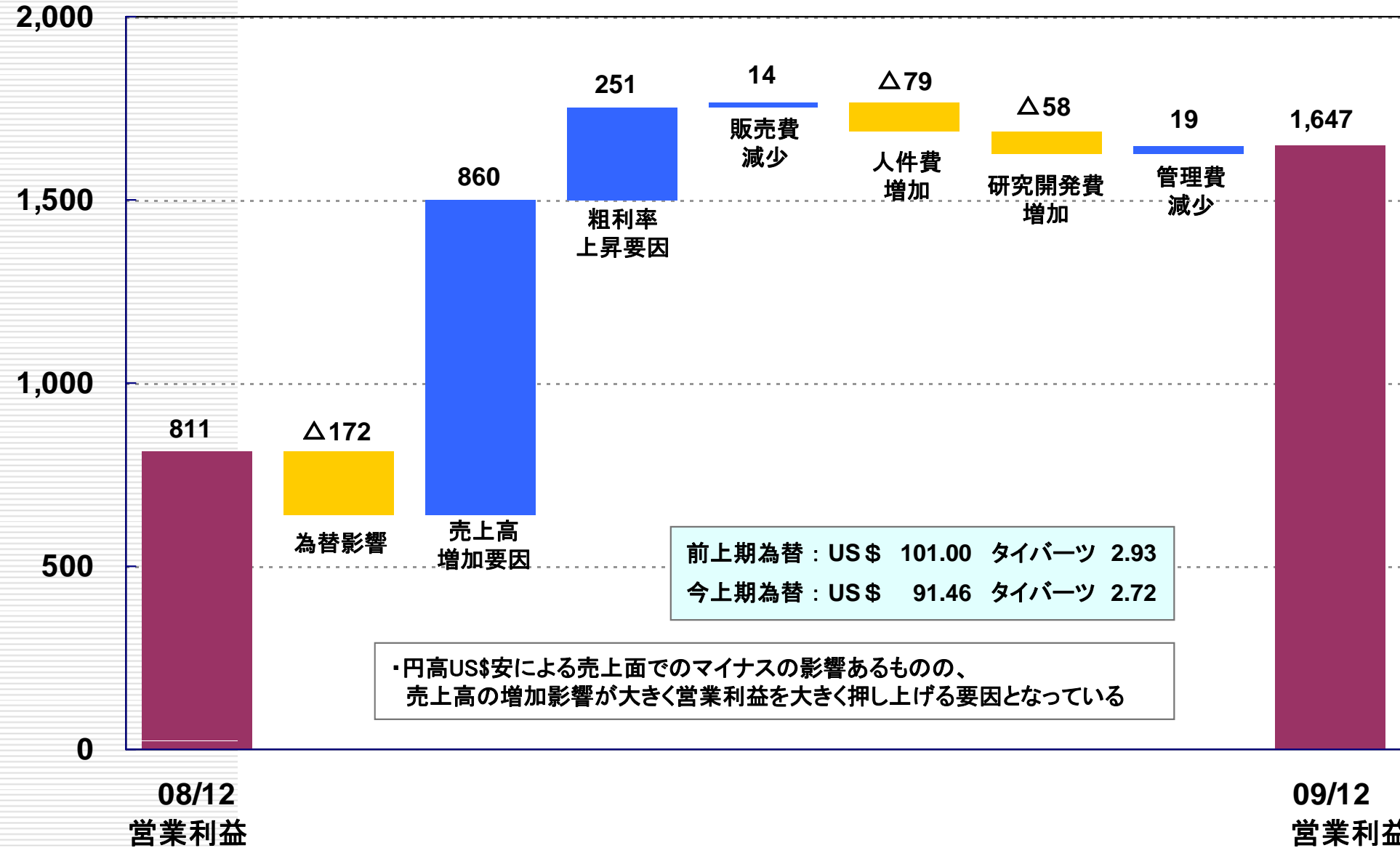
(百万円)





営業利益増減要因分析-2(為替の影響を除く)

(百万円)

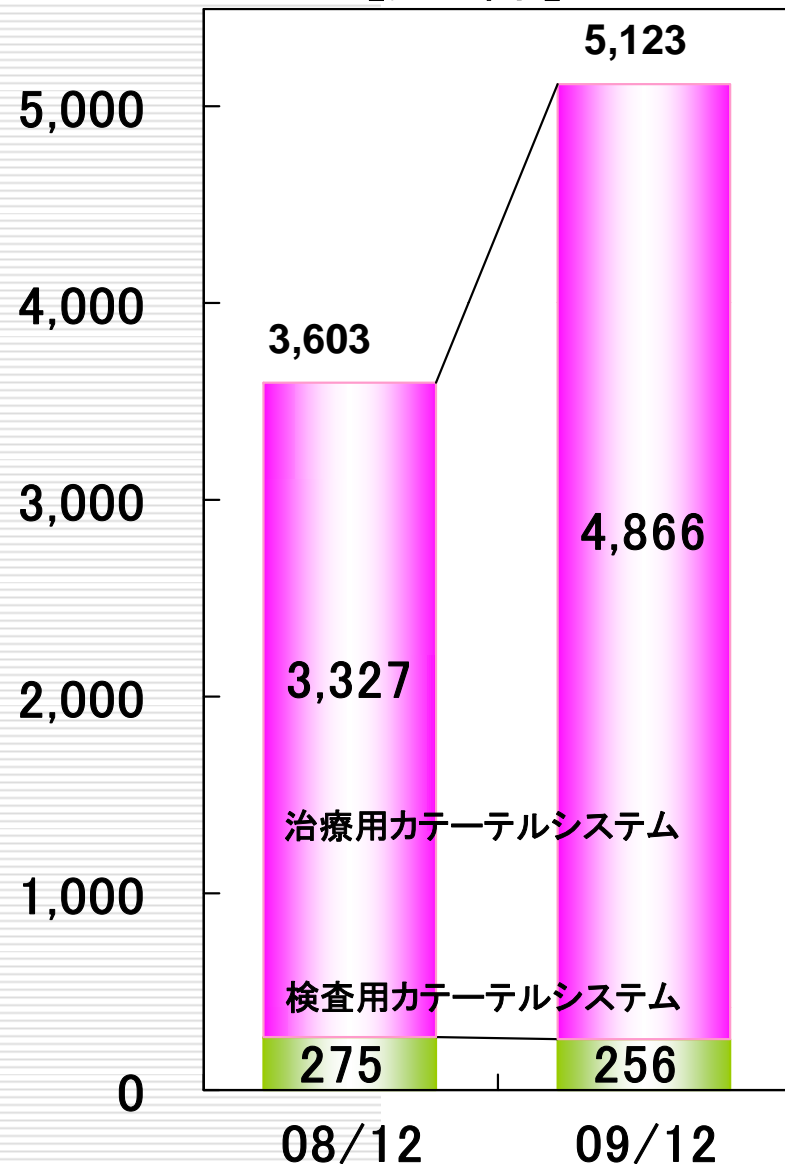




メディカル・ブランド事業の状況

(百万円)

【売上高】



■ 国内・海外共に順調に推移

- 売上高5,123百万円(前年同期比42.2%増)
- 営業利益1,828百万円(同88.2%増)

■ 治療用カテーテルシステム

- 4,866百万円(前年同期比1,538百万円増、同46.2%増)
- 国内:循環器系を中心に幅広い患部領域の製品が好調
 - ▶ PTCAガイドワイヤーの売上高が大幅に増加(頁13)
 - ▶ PTCAバルーンカテーテルが新製品投入により売上増加
 - ▶ 末梢血管系(透析用)のPTAバルーンカテーテルの売上増加
 - ▶ 新分野として参入した脳血管系製品も好調に推移
- 海外:アボット社及びアボット社以外の売上が順調に拡大
 - ▶ 米国・欧州・アジアなど全世界的にPTCAガイドワイヤーの売上が大きく増加、特に中国向けが予想以上に好調に推移(頁12、15)
 - ▶ CTO用貫通カテーテル「Corsair」の米国・欧州地域等への販売開始による売上増加
 - ▶ 末梢血管系のペリフェラルガイドワイヤーの売上が米国企業との契約締結により新規に増加

■ 検査用カテーテルシステム

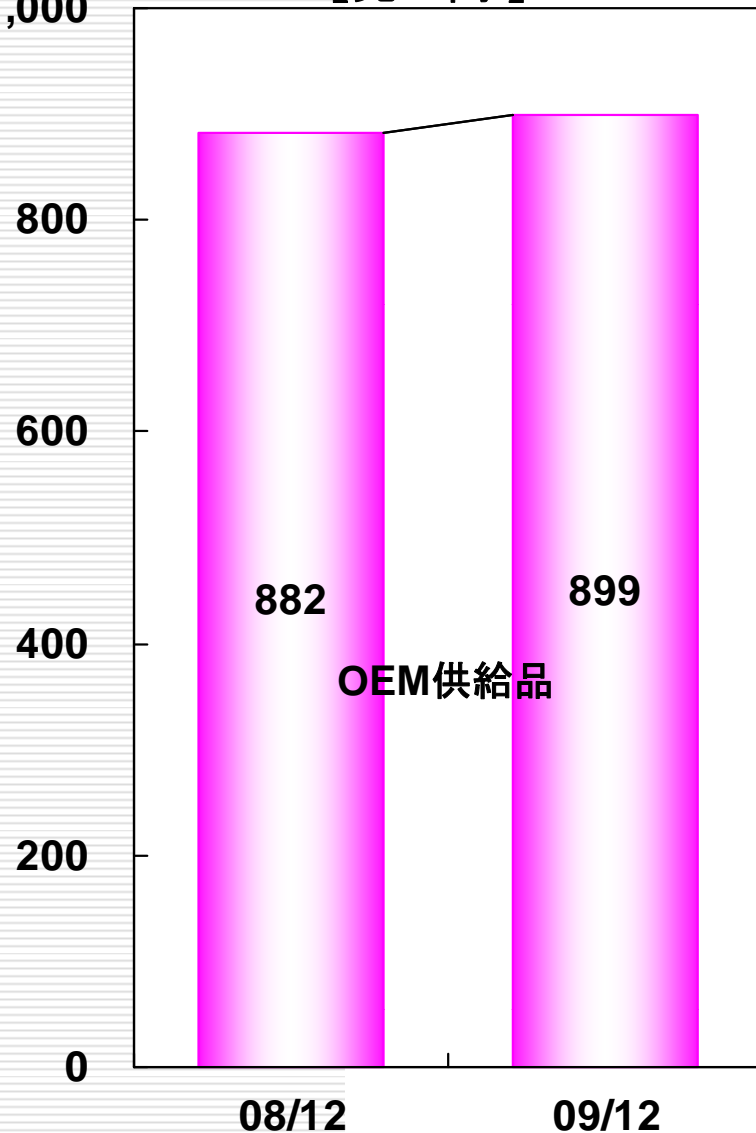
- 256百万円(前年同期比19百万円減、同6.9%減)
 - ▶ 価格競争厳しく、海外向け検査用カテーテルは方針により縮小傾向



メディカル・OEM事業の状況

(百万円)
1,000

【売上高】

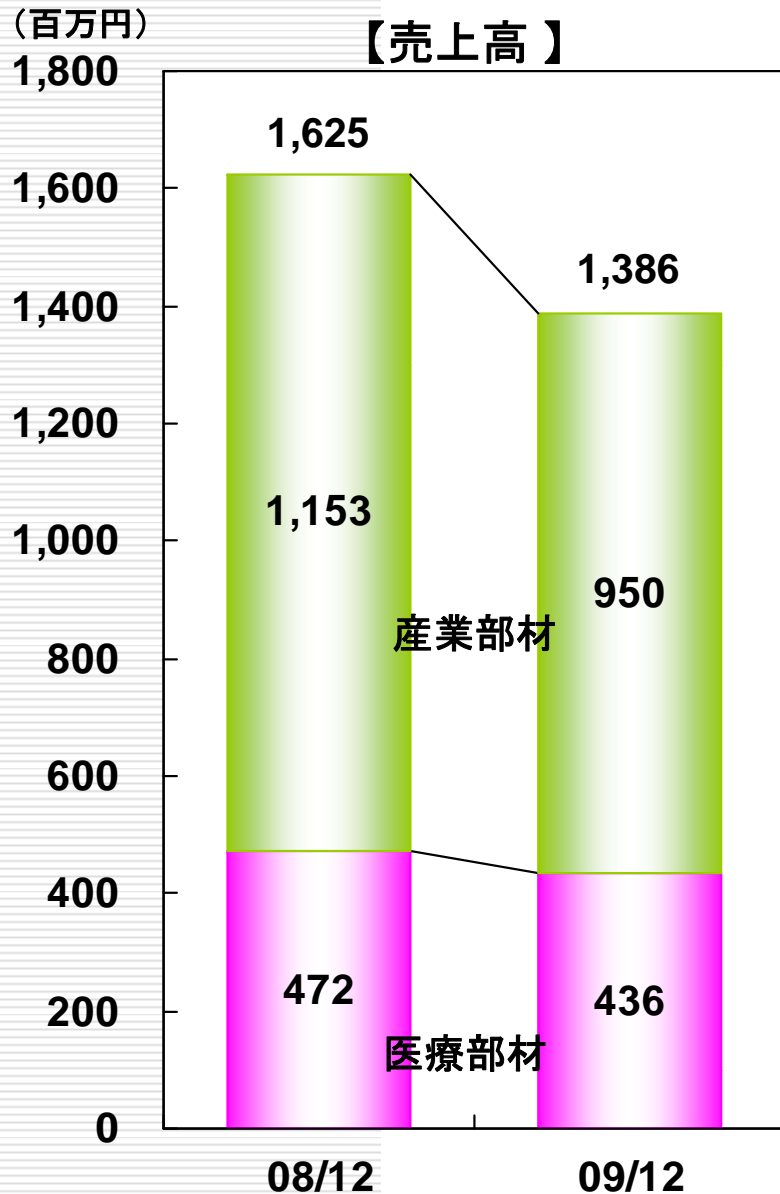


- 循環器以外の新領域分野への進出を積極的に展開
 - 売上高889百万円(前年同期比1.9%増)
 - 営業利益208百万円(同19.4%増)

- OEM供給品
 - 889百万円(前年同期比16百万円増、同1.9%増)
 - 国内医療機器メーカー向けOEM供給品はほぼ横ばい
 - ▶ 末梢血管用や腹部用ガイドワイヤーなどが順調に推移
 - ▶ 一方、内視鏡関連製品は減少
 - 海外向けは米国市場を中心に好調に推移
 - ▶ 米国向け末梢血管用や脳血管用製品が増加



デバイス事業の状況



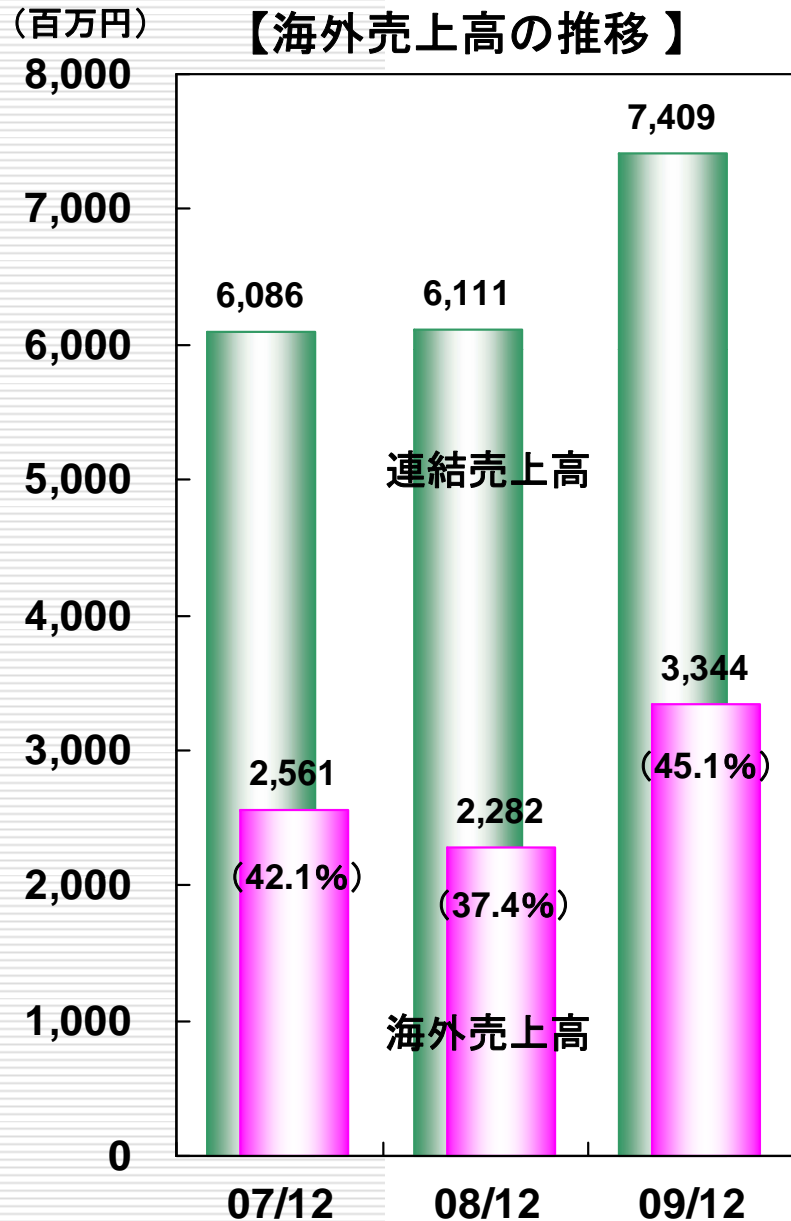
- 医療部材及び産業部材について開発・製造・販売
産業部材は景況感悪化により厳しい事業環境が継続
 - 売上高1,386百万円(前年同期比14.7%減)
 - 営業利益279百万円(同16.0%減)

- 産業部材
 - 950百万円(前年同期比202百万円減、同17.6%減)
 - 市況悪化の影響により一部の製品を除き大幅受注減
 - ▶ 海外向け自動車用ロープ、漁業用イカ釣りロープなどが増加
 - ▶ 国内・海外共にOA機器市場を中心としてほぼ全ての市場において受注が減少
 - 高付加価値製品へのシフト、販売価格見直しに注力

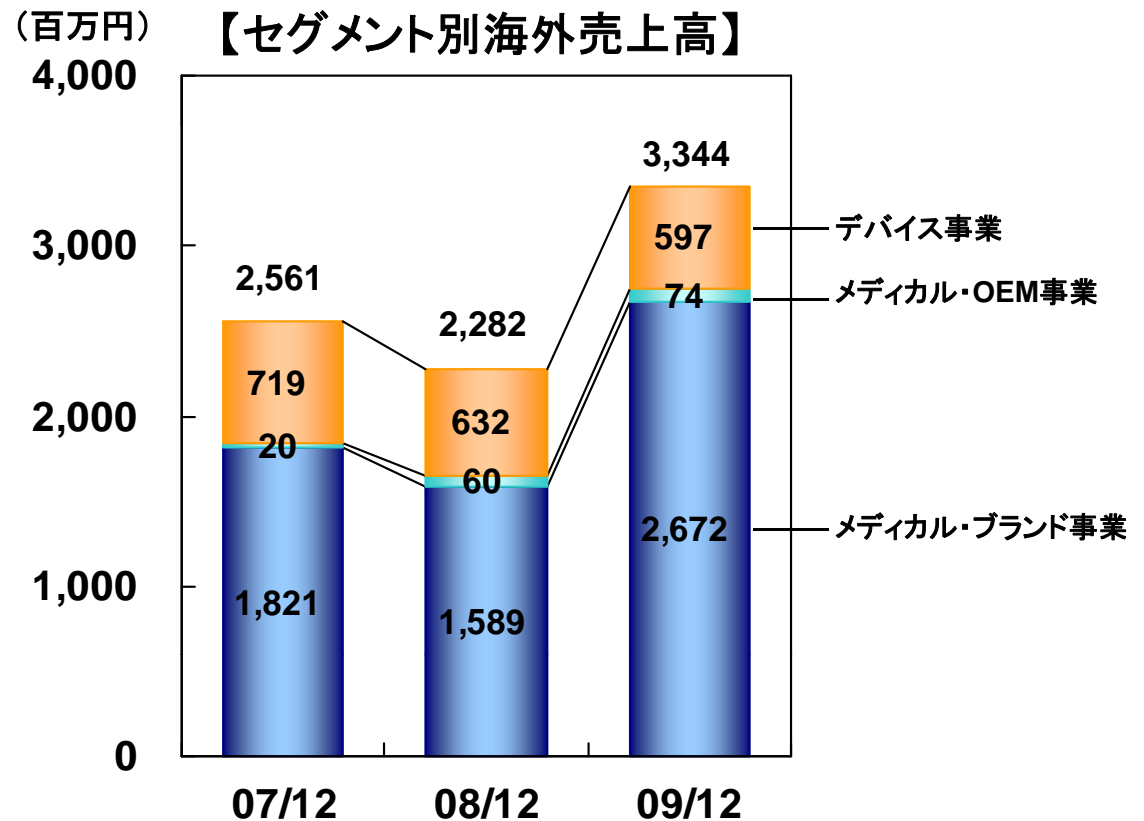
- 医療部材
 - 436百万円(前年同期比36百万円減、同7.7%減)
 - 海外向け医療部材はほぼ横ばいに推移
 - 国内向けについては、内視鏡関連部材の取引が減少



海外売上高の状況



- 海外売上高は1,061百万円増加(前年同期比46.5%増加)
 - ▶ ドル安による売上高減少や産業機器減少の影響を受けたものの、医療機器分野のメディカル・ブランド製品が好調
 - ▶ アボット社との2008年の取引本数協議が2008年10月末に再合意し、11月以降は急速に伸長
 - ▶ メディカル・ブランド事業では特にアジア向けが好調に推移





損益の状況(連結)

	2009年6月期 上期実績		2010年6月期 上期実績			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
売上高	6,111	100.0	7,409	100.0	+1,297	医療機器分野の増収
売上原価	2,841	46.5	3,230	43.6	+388	製造経費及び原材料費の減少
売上総利益	3,269	53.5	4,178	56.4	+909	稼働率上昇に伴う生産性向上
販管費	2,457	40.2	2,531	34.2	+73	人件費及び研究開発費の増加
営業利益	811	13.3	1,647	22.2	+835	
営業外収益	88	1.4	42	0.6	△46	保険返戻金の減少 △40
営業外費用	510	8.3	128	1.7	△381	円高影響による為替差損 △372
経常利益	389	6.4	1,561	21.1	+1,171	
特別利益	0	0.0	8	0.1	+8	貸倒引当金戻入金 +8
特別損失	538	8.8	120	1.6	△417	投資有価証券評価損 △414 前期損益修正損失 +76 たな卸資産評価損 △66
四半期純利益	△286	-	1,006	13.6	+1,292	

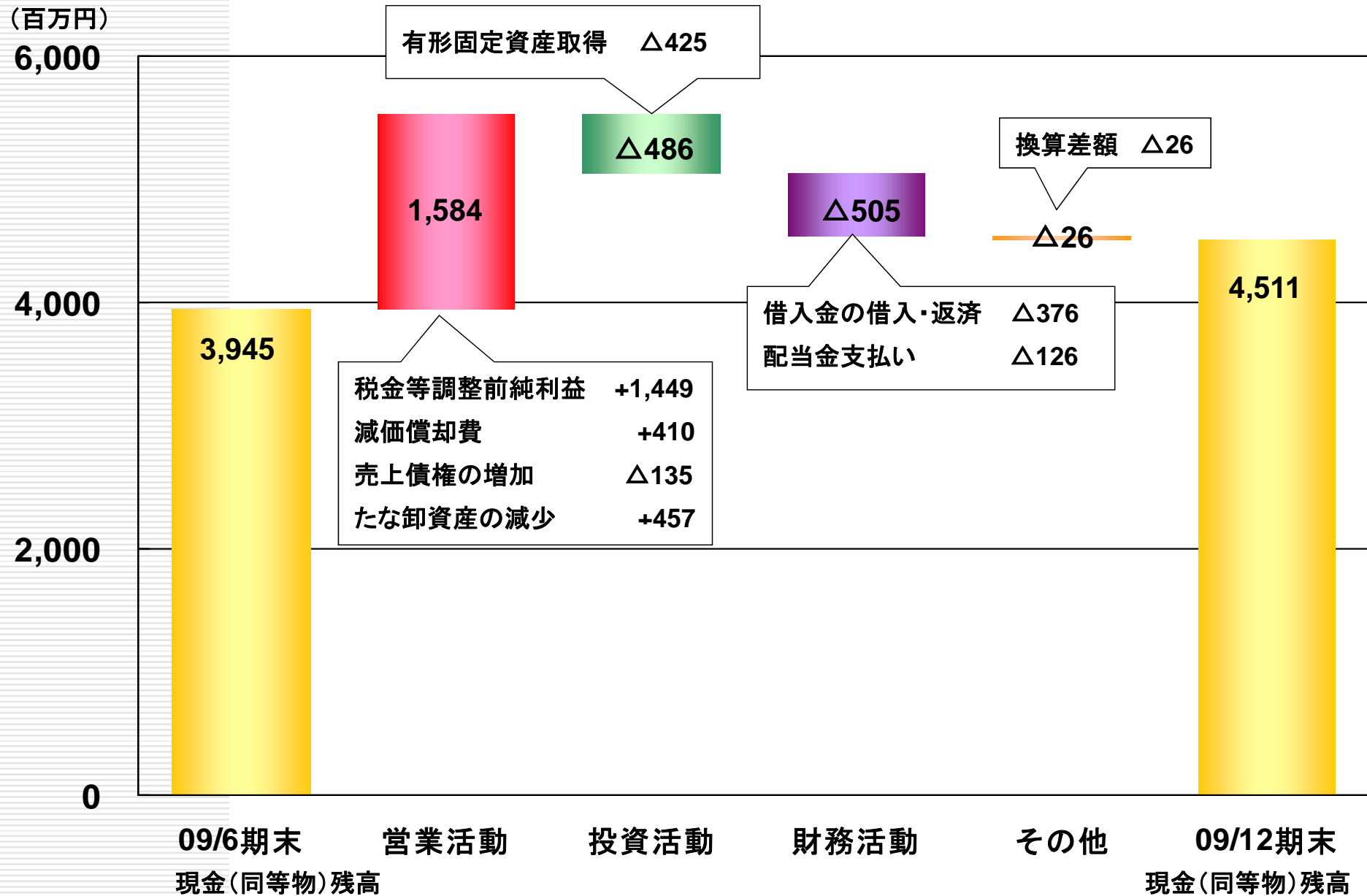


財務の状況(連結)

	2009年6月期 期末実績		2010年6月期 上期実績			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
流動資産	11,117	53.8	11,376	54.4	+258	現預金の増加 +565 売上債権の増加 +80 たな卸資産の減少 △496
固定資産	9,537	46.2	9,539	45.6	+1	有形固定資産の増加 +20 投資有価証券の減少 △30
資産合計	20,655	100.0	20,915	100.0	+260	
流動負債	4,624	22.4	4,646	22.2	+21	短期借入金の増加 +195 未払法人税等の減少 △69
固定負債	3,872	18.7	3,331	15.9	△541	長期借入金の減少 △613
負債合計	8,497	41.1	7,977	38.1	△519	
純資産合計	12,158	58.9	12,938	61.9	+780	利益剰余金の増加 +879 為替換算調整勘定の減少 △119
負債・純資産合計	20,655	100.0	20,915	100.0	+260	



連結キャッシュ・フローの状況





1. 2010年6月期(上期)決算の概要

2. 2010年6月期(通期)業績見通し



2010年6月期決算の見通し(連結)-1

- 上期業績が好調に推移したことに伴ない、通期業績見通しを上方修正
(売上高:期初計画比1.3%増、営業利益:同26.5%増、経常利益:同25.5%増、当期純利益:同27.4%増)
- 売上高は14,981百万円(前期比17.8%増)と堅調な推移を見込む
 - 増収分野:医療機器 減収分野:産業機器
 - ▶ 産業機器分野は景気の先行きに不透明感が強く、引き続き厳しい事業環境にあるものの、医療機器分野において自社ブランド製品が国内・海外共に好調に推移
 - ▶ アボット社向け売上の増加、アボット社以外の取引も順調に拡大
- 先行的な費用発生あるも、医療機器分野の増産効果で大幅な増益を見込む
 - 営業利益は2,821百万円(前期比58.3%増) (営業利益率は同4.8ポイント上昇見込み)
 - ▶ 経費圧縮に努める一方、将来の成長に向けた先行的な費用が増加
(研究開発費、営業力やマーケティング機能強化のための人員及び諸経費の増加)
 - 経常利益は2,709百万円(前期比88.4%増)
 - 当期純利益は1,804百万円(前期比304.6%増)

為替の前提

下期: US\$ 95.00円 タイバーツ 3.00円

通期: US\$ 93.23円 タイバーツ 2.86円

為替変動による営業利益の影響(試算)

US\$ (+1円の影響): 約59百万円増加

タイバーツ(+0.1円の影響): 約78百万円減少



2010年6月期決算の見通し(連結)-2

■ 見通しの前提：下期業績予想は据え置き

売上面

- 主力のメディカル・ブランド事業は上期同様に好調に推移し、当初見通しを上回る見込み
- 一方、景気動向の影響を受けることや、高付加価値製品へのシフトを進めることなどにより、デバイス事業における産業機器分野の売上高は当初見通しを下回る可能性
- また、海外向け医療部材及び国内OEM供給品も取引先の影響を受け当初見通しを下回る可能性
- 2010年4月改定予定の保険償還価格の引き下げは当初計画のまま△10%を据え置き

利益面

- コストダウン努力の継続により、固定費及び販管費が計画よりも若干減少する見込み
- 一方、新規大型OEM案件の生産準備及び新規工場への生産移設により一時的に生産性が鈍化
 - ✓ 来期以降に新規に取引が発生する大型案件の生産をASAHI INTECC HANOI CO., LTD. で開始
 - ✓ ASAHI INTECC THAILAND CO., LTD. の新規工場への生産移設
- たな卸資産の圧縮 (直送体制へのシフトや在庫評価見直し等による在庫の適正化)

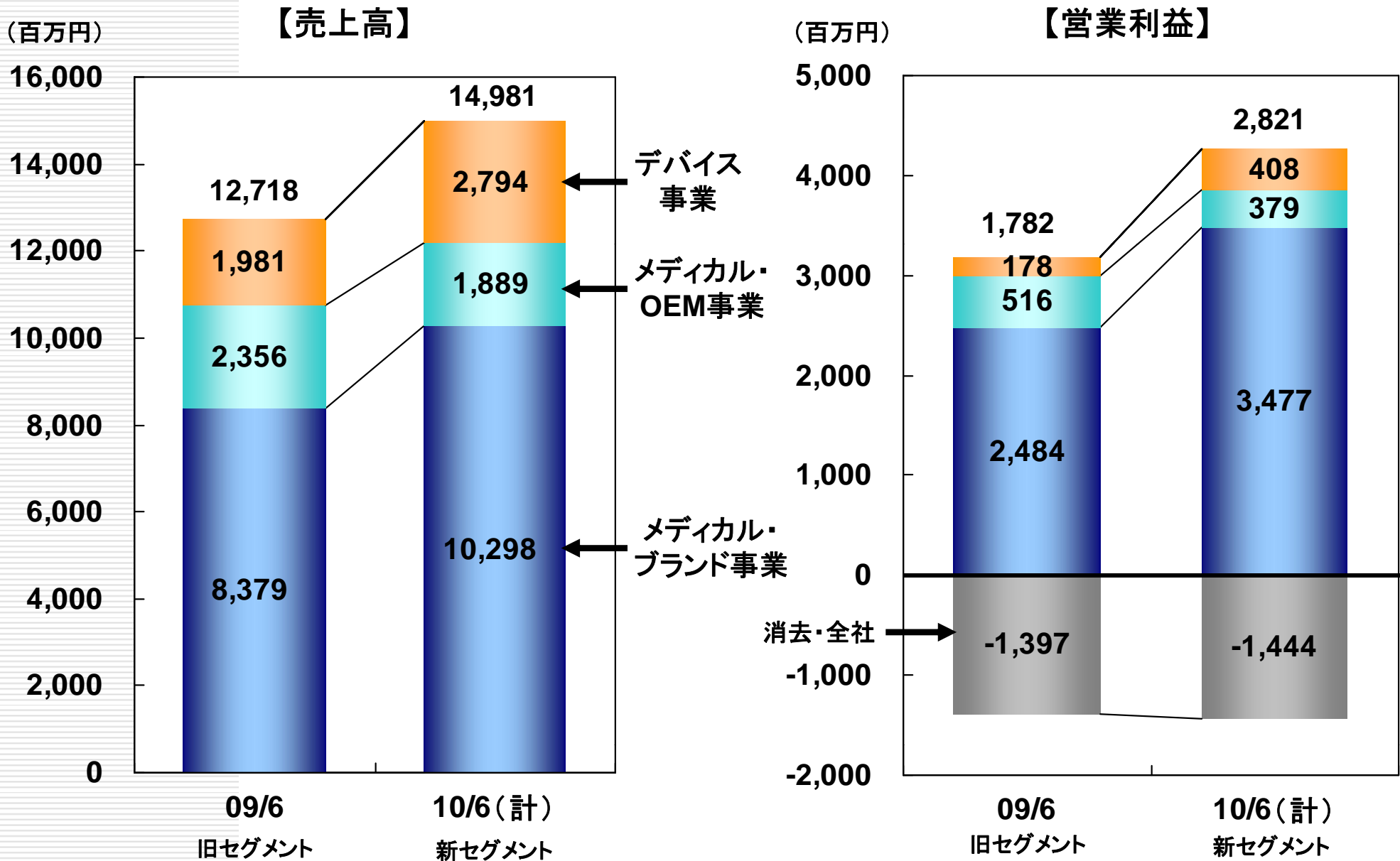


2010年6月期業績見通し(連結)

	2009年6月期(実績)		2010年6月期(計画)					
	金額 (百万円)	構成比 (%)	期初計画 2009/8/11	金額 (百万円)	構成比 (%)	前期比		期初計画比
						増減額 (百万円)	増減率 (%)	増減率 (%)
売上高	12,718	100.0	14,789	14,981	100.0	+2,263	+17.8	+1.3
売上総利益	6,888	54.2	8,084	8,289	55.3	+1,400	+20.3	+2.5
営業利益	1,782	14.0	2,229	2,821	18.8	+1,038	+58.3	+26.5
経常利益	1,438	11.3	2,158	2,709	18.1	+1,271	+88.4	+25.5
当期純利益	445	3.5	1,416	1,804	12.0	+1,358	+304.6	+27.4
EPS	28.13円	-	89.35円	113.80円	-			-

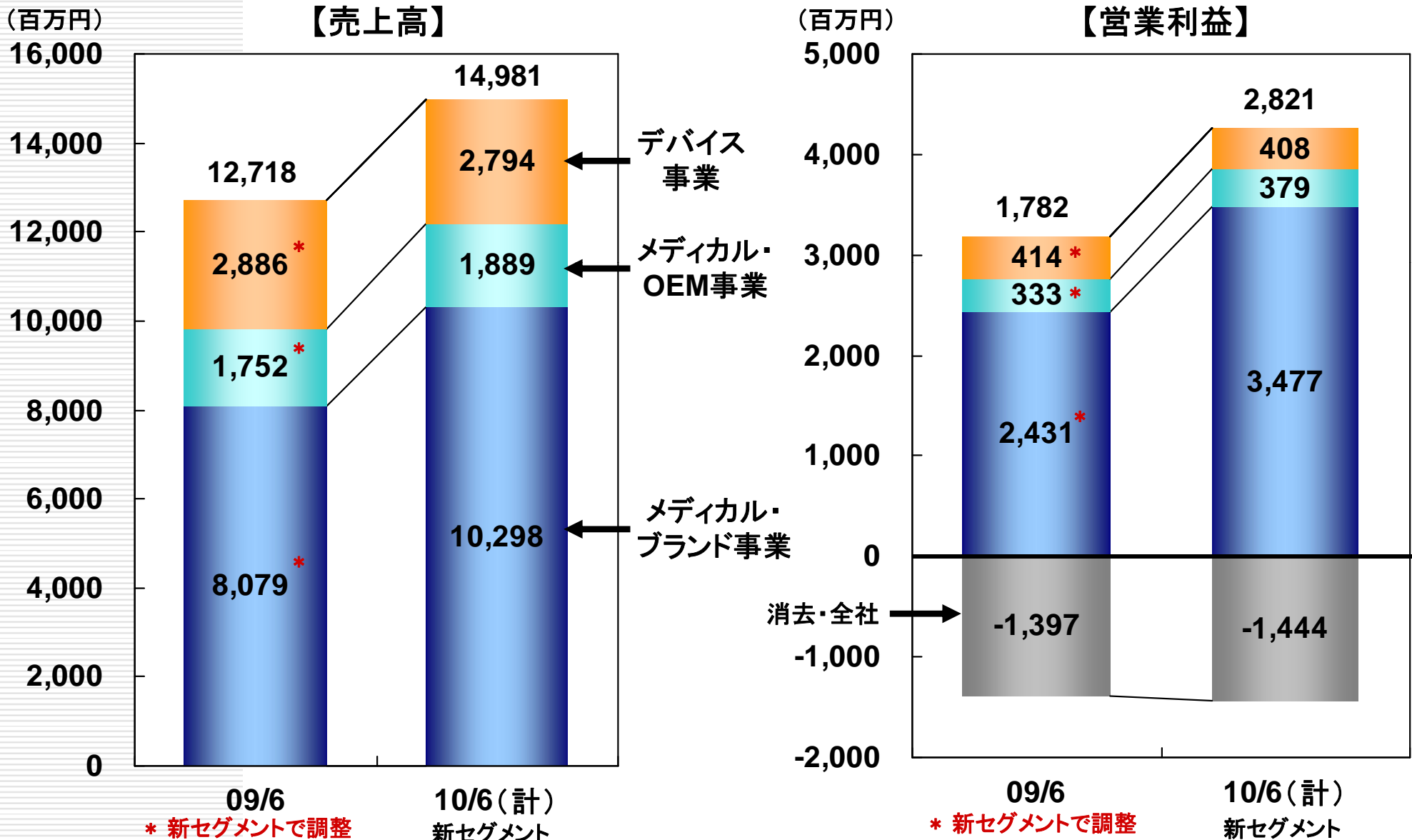


ご参考: セグメント別の収益見通し





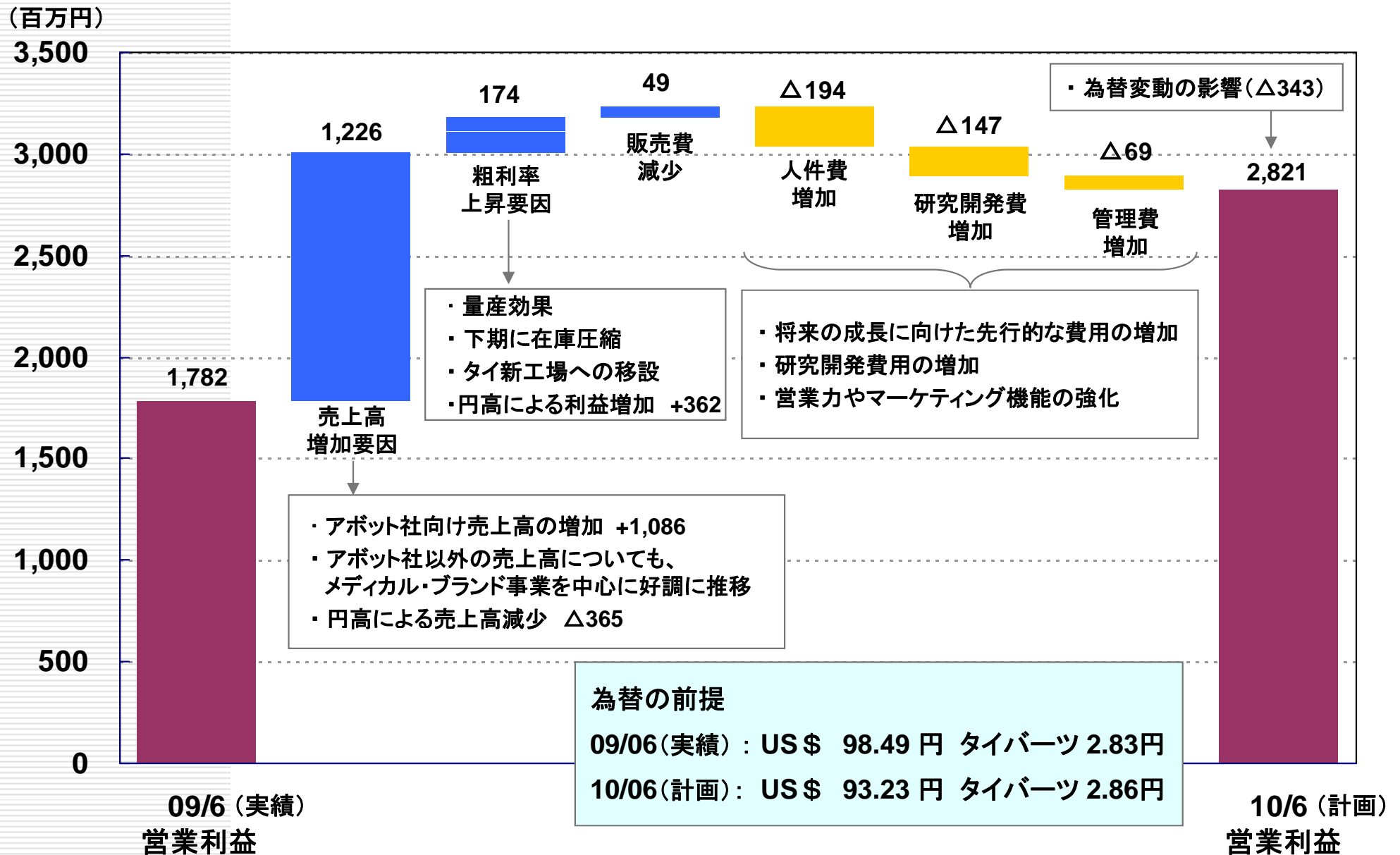
新セグメントによる収益見通し



注) 09/6期数値について、09年8月開示数値から監査済数値に変更しております。主な変更要因はセグメント間取引の単価修正部分となります。

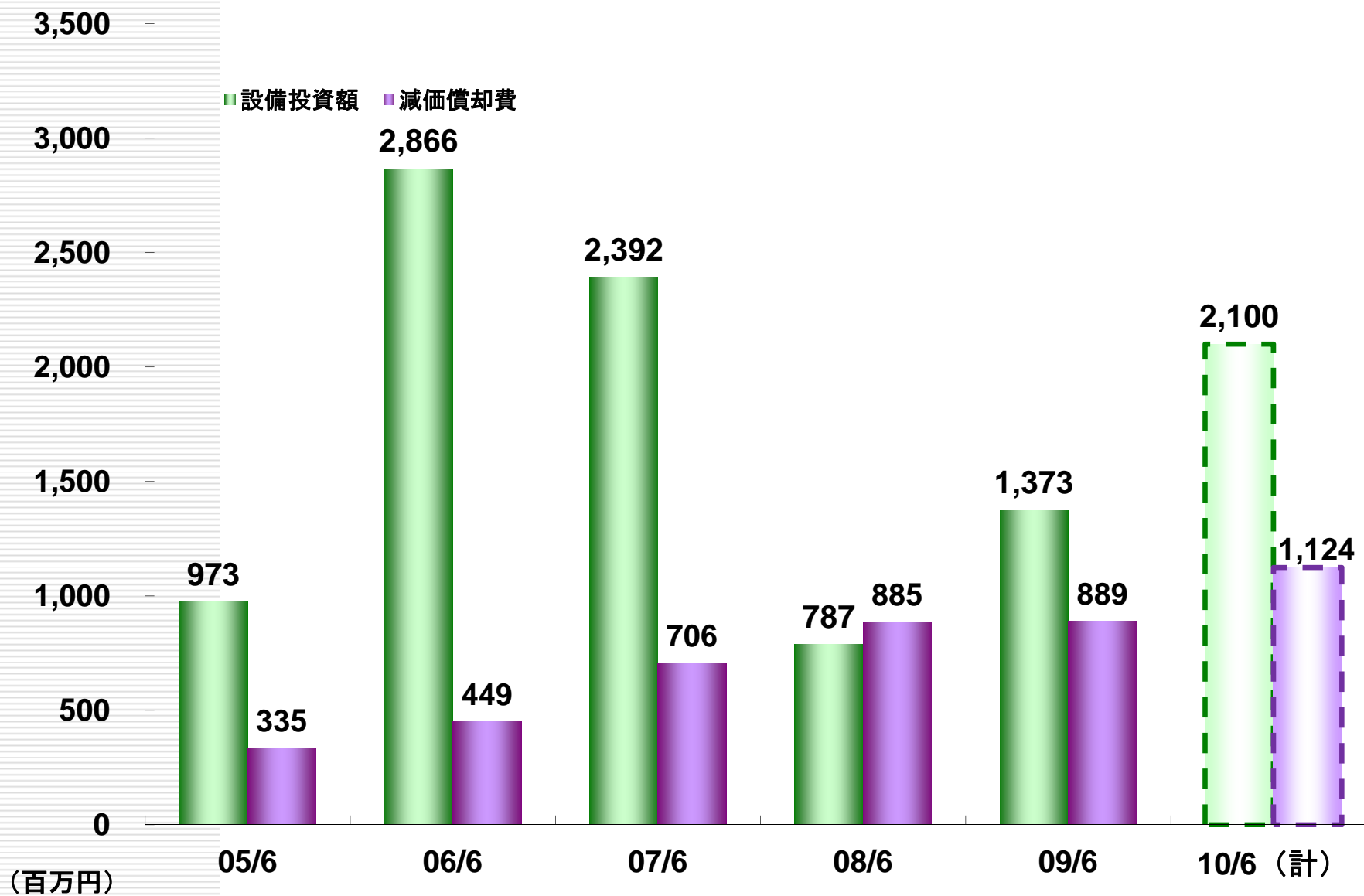


10/6期計画の営業利益増減要因分析





設備投資の実績及び計画





本資料における注記事項

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

朝日インテック株式会社 経営戦略室

TEL 052-768-1218 (Direct)

URL <http://www.asahi-intecc.co.jp/>